

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：57-59	3循環器；スワン・ガンツ(Swan-Ganz)カテーテル.	上西祐一朗	心臓血管外科
Nursing Mook見てわかるドレーン&チューブ管理：60-61	3循環器；大動脈内バルンポンピング(IABP).	上西祐一朗	心臓血管外科
心臓38(6):646-649	婦人科悪性腫瘍に合併した急性肺動脈血栓塞栓症に対し経皮的心肺補助装置下に経皮的吸引式血栓適除を行い救命した1例.	坂野康人	心臓血管外科
自治医大医学部紀要29:55-59	胸部大動脈手術周術期における心房性不整脈の発生要因について.	坂野康人	心臓血管外科
日血外会誌15(4):441-444	異なる血行再建を行った感染性腹部大動脈瘤の2治験例.	相澤啓	心臓血管外科
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 54(9):413-415	Simultaneously performed mitral valve replacement and Hartmann's operation for infectious endocarditis from Streptococcus bovis and rectal cancer.	相澤啓	心臓血管外科
胸部外科59(12):1103-1105	大動脈弁置換術後遠隔期に上行大動脈瘤をきたした大動脈炎症候群の1例.	田口昌延	心臓血管外科
Asian Cardiovasc Thorac Ann 14(5):e86-e87	Thoracoscopic findings of a small posterior mediastinal parathyroid adenoma.	田口昌延	心臓血管外科

計8

- (注) 1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
2. 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastroenterol. Endosc.	ダブルバルーン式小腸内視鏡の現況	喜多 宏人	消化器内科学
Gastroenterological Endoscopy	Molecular abnormalities in the precancerous conditions of the stomach.	K. Sugano	消化器内科学
J. Cellular Biochemistry	Existence of autocrine loop between interleukin-6 and transforming growth factor- β 1 in activated rat pancreatic stellate cells.	H. Aoki	消化器内科学
Best Practice & Reserch Clinical Gastroenterology	Double-balloon endoscopy for the diagnosis and treatment of small intestine disease.	H. Kita	消化器内科学
J. Gastroenterology	Differential gene expression between adenoma and normal mucosa in the colon in a microarray analysis.	H. Kita	消化器内科学
Differentiation	The intestine-specific homeobox gene Cdx2 induces expression of the basic helix-loop-helix transcription factor Math1.	H. Mutoh	消化器内科学
Gut	Helicobacter pylori eradication induces marked increase in H ⁺ /K ⁺ -adenosine triphosphatase expression without altering parietal cell number in human gastric mucosa.	H. Osawa	消化器内科学
J. Gastroenterology	Changes in plasma ghrelin levels, gastric ghrelin production, and body weight after Helicobacter pylori cure.	H. Osawa	消化器内科学
Biochem. Biophys. Res. Comm.	Sonic hedgehog stimulates the proliferation of rat gastric mucosal cells through ERK activation by elevating intracellular calcium concentration.	H. Osawa	消化器内科学
Hepatology Research	A case of hepatic pseudolymphoma observed without surgical intervention.	H. Ota	消化器内科学
Biochem. Biophys. Res. Comm.	Angiotensin II promotes the proliferation of activated pancreatic stellate cells by Smad7 induction through a protein kinase C pathway.	K. Hama	消化器内科学
Gastrointest. Endosc. Clin. N. Am.	Double-balloon Endoscopy: From concept to reality.	H. Yamamoto	消化器内科学
J. Gastroenterol. Hepatol.	Metalic stent for an obstructing jejunal cancer.	Y. Hayashi	消化器内科学

計 13

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
厚生労働科学研究補助金 難治性疾患克服研究事業 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究 平成18	脊柱靭帯の特性に関する研究 —ラット黄色靭帯における靭帯骨化の場としての検討—	中間季雄	リハビリ(整形外科)
厚生労働科学研究補助金 長寿科学総合研究事業 高齢者の運動機能低下評価法と回復運動療法	体幹筋の筋活動と筋血流動態に関する研究 —高齢者の脊椎後弯に伴う腰背部痛の発生機序—	中間季雄	リハビリ(整形外科)
Medical Molecular Morphology 39(4):198-202, 2006	An ultrastructural study on the ligamentum flavum of the cervical spine in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament.	Sueo Nakama	リハビリ(整形外科)

計 3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所属部門
Med Mol Morphol	An ultrastural study on the ligamentum flavum of the cervical spine in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament	Sueo Nakama	整形外科
脊椎脊髄 特集 黄色靱帯に生じる各種病変	黄色靱帯石炭化症	山室健一	整形外科
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 脊柱靱帯骨化症に関する	脊柱靱帯の特性に関する研究 ーラット黄色靱帯における靱帯骨化の場としての検討ー	中間季雄	整形外科

計 3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jichii Medical School Journal 28 2006 71-76	Rapid progression of congenital heart block with negative maternal anti-Ro/SSA antibody.	Mari Saito	小児科学
日本周産期・新生児医学会雑誌 42 2006 659-663	胎児期発症心房粗動の新生児4例	小宮山 真美	小児科学
小児科臨床 59 2006-9 155-160	口唇口蓋裂, 小陰茎, 精神運動発達遅滞を呈した下垂体前葉欠損の1例	小宮山 真美	小児科学
小児科臨床 59 2006-10 121-126	乳幼児の気管支喘息中発作に対する治療の検討	齋藤 貴志	小児科学
小児科臨床 59 2006-11 16-20	画像上胸膜肺芽腫との鑑別が困難であった肺炎球菌性膿胸の1例	松本 静子	小児科学
小児科臨床 59 2006-11 101-109	突発性発疹に伴う脳炎脳症の4例	藤田 ひとみ	小児科学
地域医学 20 2006 368-374	へき地診療所勤務の非救急医としての救急への対応	市川 万邦	小児科学
周産期医学 36 2006 530-531	インフルエンザ桿菌感染症	矢田 ゆかり	小児科学
小児の精神と神経 46 (2) 2006 113-120	就学前の健常児にみられる対応困難な行動(challenging behavior): 出現頻度と養育者ニーズに関する検討	塩川 宏郷	小児科学

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
看護部長通信 4(5):8-25, 2006	患者状況調査システムを活用した看護状況把握のための取り組み—患者の状況の点数化と部署別、勤務帯別格差の明確化—	大柴幸子	医療情報部
臨床外科 61(5):613-620, 2006	[手術のための臨床局所解剖] 胆道手術のための臨床局所解剖	佐田尚弘	医療情報部
外科治療 95(4):393-398, 2006	[胆嚢癌はどこまで治せるか] 治療の実際 胆摘後胆嚢癌と診断されたときの治療方針	佐田尚弘	医療情報部
胆と膵 27(4):219-222, 2006	[胆膵腫瘍治療成績に関する最新データとその評価] 胆管癌 治療成績に関する最新のデータ	佐田尚弘	医療情報部

計4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J. Tokyo Wom. Med. Univ 76:114-121, 2006	Effect of citrate on the development of experimental polycystic kidney disease	八木澤 隆	腎臓センター 外科部門

計 1

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所属部門
Leukemia & Lymphoma	Development of streptococcus meningitis and Epstein-Barr virus reactivation after non-T-cell-depleted human leukocyte antigen-haploidentical peripheral blood stem cell transplantation based on fetomaternal microchimerism.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Cytherapy	Screening of genes responsible for differentiation of mouse mesenchymal stromal cells by DNA micro-array analysis of C3H10T1/2 and C3H10T1/2-derived cell lines.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Blood	Nitric oxide plays a critical role in suppression of T-cell proliferation by mesenchymal stem cells.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Leukemia & Lymphoma	Pleocytosis after hemopoietic stem cell transplantation.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Leukemia Research	Establishment and characterization of a new erythroblastic leukemia cell line, EEB: phosphatidylglucoside-mediated erythroid differentiation and apoptosis.	Kazuo Muroi	無菌治療部
Internal Medicine	Bone Marrow metastasis of malignant melanoma.	Kazuo Muroi	無菌治療部
The Journal of Infection	The usefulness of magnetic resonance imaging (MRI) for disseminated trichosporosis of the gastrocnemius muscles.	Kazuo Muroi	無菌治療部

計 7

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia & Lymphoma	Development of streptococcus meningitis and Epstein-Barr virus reactivation after non-T-cell-depleted human leukocyte antigen-haploidentical peripheral blood stem cell transplantation based on fetomaternal microchimerism.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Cytherapy	Screening of genes responsible for differentiation of mouse mesenchymal stromal cells by DNA micro-array analysis of C3H10T1/2 and C3H10T1/2-derived cell lines.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Blood	Nitric oxide plays a critical role in suppression of T-cell proliferation by mesenchymal stem cells.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Leukemia & Lymphoma	Pleocytosis after hemopoietic stem cell transplantation.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Leukemia Research	Establishment and characterization of a new erythroblastic leukemia cell line, EEB: phosphatidylglucoside-mediated erythroid differentiation and apoptosis.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
Internal Medicine	Bone Marrow metastasis of malignant melanoma.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部
The Journal of Infection	The usefulness of magnetic resonance imaging (MRI) for disseminated trichosporosis of the gastrocnemius muscles.	Kazuo Muroi	輸血・細胞移植部

計 7

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本耳鼻咽喉科学会 会誌 110:13-19, 2007	前方型披裂軟骨脱臼症に対する局所麻酔ファイバースコープ下整復術.	阿部弘一 他	耳鼻咽喉科
頭頸部癌 32(4):417-422, 2006	P53/P21経路におけるRad9の役割と頭頸部癌への関与.	石川和宏 他	耳鼻咽喉科
血栓と循環 16:6-11, 2007	PAI-1ノックアウトマウスを用いたアレルギー性鼻炎の解析.	瀬嶋尊之 他	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx 33:423-428, 2006	Nasal dermoplasty for Japanese hereditary hemorrhagic telangiectasia.	Ichimura, K.	耳鼻咽喉科

計4

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Pediatric Surgery, 2006, 41, 2066-2068	Pyloromotomy through a sliding umbilical window	横森欣司	小児外科

計1

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
精神経誌 108:556-570	統合失調感情障害中間領域の疾病論的位置づけ	加藤敏 阿部隆明	精神科
栃木精神医 26:39-49	コタール症候群不全型を呈した妄想性うつ病の難治例	笠井麻紀子 小林聡幸 山家邦章	精神科
精神医学史研究 10:35-41	グリーンジャーにおける単一精神病論—精神疾患概念の脱構築に向けて	加藤 敏	精神科
フランス哲学・思想研究 11:25-36	現代医学からみるメルロ＝ポンティエの「制度の哲学」	加藤 敏	精神科
病跡誌 71:4-15	病跡学の未来—脳科学との架橋	加藤 敏	精神科
精神経誌 108:217-231	統合失調症における虚偽主題	大塚 公一郎 加藤 敏	精神科
精神経誌 108:694-704	統合失調症初診症例は減少しているか?—大学病院・総合病院精神科外来での初診割合の調査	利谷健治 小林聡幸 大澤卓郎 加藤敏 衛藤進吉	精神科
栃木精神医 26:50-55	抑うつ神経症の治療中にmethylphenidateを濫用した一例	敦賀光嗣 山内芳樹 大澤卓郎 小林聡幸	精神科
日社精医誌 14:242-250	山間部へき地住民におけるPHQ(Patient Health Questionnaire)調査	山家邦章 岡島美朗 加藤敏	精神科
精神経誌 108:1142-1150	夫の死後に疼痛性障害を来した老年期女性の一例	山本和巳 大西康則 阿部隆明 加藤敏	精神科
栃木精神医 26:30-38	一連の喪失体験ののち初老期に発症した強迫性障害の一例—心理的緊張(P. Janet)の概念からみたその治療経過	安田学 小林聡幸 上野直子 加藤敏	精神科
臨床精神病理 27:185-195	うつ病と腰痛—対象喪失と秩序の破綻	吉田勝也 加藤敏	精神科
Psychiat Clin Neurosci 60:452-457	Long-term clinical course of patients with acute polymorphic psychotic disorder without symptoms of schizophrenia.	Abe, T. Otsuka, K. Kato, S.	精神科
Lepr Rev 77:203-9	Prevalence and characteristics of depression in a Japanese leprosarium from the viewpoints of social stigmas and aging. A preliminary report	Nishida, M.	精神科
J Clin Psychopharmacol 26:673-675	Use of a serotonin 1A receptor agonist to treat restless legs syndrome.	Shioda, K. Nisijima, K. Kato, S.	精神科
Gen Hosp Psychiatry 28:81-83	Electroconvulsive therapy for the treatment of multiple system atrophy with major depression	Shioda, K. Nisijima, K. Kato, S.	精神科

計16

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biochem Biophys Res Commun 346: 1297-1302, 2006	Profile of rhythmic gene expression in the livers of obese diabetic KK-Ay mice.	Ando H	薬理学講座
J Diabetes Complications 20:367-370, 2006	Erythrocyte sorbitol level as a predictor of the efficacy of epalrestat treatment for diabetic peripheral polyneuropathy	Ando H	薬理学講座
Clin Nephrol 65: 75-77, 2006	Changes of neutrophil function during the inter-dialytic period.	Kitoh Y	薬理学講座
Nephron Physiol 102: 51-60, 2006	Effect of trimethoprim-sulfamethoxazole on Na ⁺ and K ⁺ transport in the rabbit cortical collecting duct.	Tsuruoka S	薬理学講座
J Pharmacol Exp Ther 316: 176-181, 2006	Dosing time-dependent effect of temocapril on the mortality of stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	Nozawa M	薬理学講座
Am J Ther 13: 127-133, 2006	Quality of Japanese clinical trials estimated good clinical practice audit findings.	Fujimura A	薬理学講座
IPSJ Transactions on Bioinformatics 47:67-72, 2006	Individual differences in gene expression in primary cultured renal cortex cells derived from Japanese subjects.	Sasaki A	薬理学講座
Eur J Clin Pharmacol 62: 209-215, 2006	Interaction between grapefruit juice and hypnotic drugs: comparison of triazolam and quazepam.	Sugimoto KI	薬理学講座
Clin Pharmacol Ther 79: 389-396, 2006	Severe arrhythmia as a result of the interaction of cetirizine and pilsicainide in a patient with renal insufficiency: first case presentation showing competition for excretion.	Tsuruoka S	薬理学講座
Eur J Clin Pharmacol 62: 571-576, 2006	Favorable effect on postgraduate clinical practice of a drug-interaction exercise for undergraduate students.	Tsuruoka S	薬理学講座
Nephrol Dial Transplant 21: 2762-2767, 2006	Defect in parathyroid hormone-induced luminal calcium absorption in connecting tubules of Klotho mice.	Tsuruoka S	薬理学講座
Am J Physiol Renal Physiol 291: F866-873, 2006	Endothelin and nitric oxide mediate the adaptation of the cortical collecting duct to metabolic acidosis.	Tsuruoka S	薬理学講座
Kidney Int 69: 1780-1785, 2006	Indoxyl sulfate stimulates proliferation of rat vascular smooth muscle cells.	Tsuruoka, S	薬理学講座
Chronobiol Int 23: 905-914, 2006	High-fat feeding exerts minimal effects on rhythmic mRNA expression of clock genes in mouse peripheral tissues.	Yanagihara H	薬理学講座

計14

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科	穿孔性眼外傷の統計	石崎こずえ	眼科
眼科臨床医報	MRIで病変部位が確認できた両側one-and-a-half症候群の1例	加藤健	眼科
臨床眼科	腎血管性高血圧症に合併した高血圧性脈絡膜症の1例	横山由晶	眼科
眼科臨床医報	Double elevator palsyにおけるknapp法の手術成績と上直筋の画像所見	牧野伸二	眼科
臨床眼科	視神経乳頭周囲にみられた先天性網膜色素上皮肥大	橋本加奈	眼科
あたらしい眼科	視神経乳頭黒色細胞腫に伴った網膜中心動脈分枝閉塞症の1例	佐々木誠	眼科
臨床眼科	治療薬選択を目的としたラタノプロスト、チモロール・ゲル点眼薬の4週試用の眼圧下降効果	橋本尚子	眼科
眼科臨床医報	高木モシステイン血症が発症に関与したと考えられる網膜中心静脈閉塞症の1例	横山由晶	眼科
眼科手術	漏出濾過胞に対する結膜被覆術の漏出阻止効果	橋本尚子	眼科
眼科	両眼動脈神経麻痺による麻痺性外斜視に対する斜視手術	牧野伸二	眼科

計10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Physiol, Regulatory Integr Comp Physiol 291:R1638-42, 2006	Long-range negative correlation of glucose dynamics in humans and its breakdown in diabetes mellitus.	Ogata, H., Nagasaka, M.	内分泌代謝学部門
Metabolism 55:258-262, 2006	Interleukin 6, adiponectin, leptin, and insulin resistance in nonobese Japanese type 2 diabetic patients.	Taniguchi, A., Nagasaka, M.	内分泌代謝学部門
Diabetes Res Clin Pract 71:164-169, 2006	Interleukin-12p40 gene (IL-12B) polymorphism and Type 1 diabetes mellitus in Japanese: possible role in subjects without having high-risk HLA haplotypes.	Yang, J.M., Nagasaka, M.	内分泌代謝学部門

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurology 66: 1103-1104, 2006.	Sacsin-relate ataxia (ARSACS): Expanding the genotype upstream from the gigantic exon.	Ouyang Y, 他	神経内科
Journal of the Neurological Sciences 247: 180- 186, 2006	16q-linked autosomal dominant cerebellar ataxia: A clinical and genetic study.	Ouyang Y, 他	神経内科
Journal of the Neurological Sciences 255: 87- 89, 2007	An unusual case of a spasticity-lacking phenotype with a novel SACS mutation.	Shimazaki H, 他	神経内科
Ann Int Med, 146(2):147, 2007.	Inherent difficulties in the use of sham-acupuncture.	Muramatsu S:	神経内科
脳と神経58(1): 63- 67, 2006.	周期性失調症の症状で発症したSCA6の1例.	嶋崎晴雄、他	神経内科
臨床神経学46: 71、 2006.	A型インフルエンザ感染後に急性小脳炎を呈し、MRIにて小脳皮質に沿った病変が認められた成人例.	石川剛久、他	神経内科
神経治療学23 (No.1): 57-61, 2006.	免疫グロブリン静注法 (IVIg) は機能的伝導ブロックを速やかに解消する—慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー (CIDP) の1例における経時的電気生理学的解析から—	中村優子、他	神経内科
脳卒中28 (6) : 318-323, 2006.	脳梗塞を合併したfibromuscular dysplasiaの1剖検例.	石川剛久、他	神経内科
臨床神経学46: 491- 495, 2006.	A型インフルエンザ感染後に急性小脳炎を呈し、MRIにて小脳皮質病変が認められた1成人例.	石川剛久、他	神経内科

計9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。